

令和5年度 南城市保幼小連携事業実践報告

南城市幼児教育センター

令和5年度の幼小連携事業は新年度初めにスタートカリキュラムの実践紹介を皮切りに、小学校1年生の授業参観・公開授業、そして幼児教育施設の公開保育をすべて終えることができた。幼小連携事業を進める中で成果や課題を確認することができた。

1 取組内容(計画)

- (1) 「スタートカリキュラム」の実践紹介
- (2) 小学校1年生の授業参観及び振り返り(意見交換)
- (3) 公開授業及び合同研修会 「玉城小学校」
- (4) 公開保育及び合同研修会

「玉城こども園、おおざと保育園、馬天保育園、おひさま保育園」

令和5年度より
本事業の名称を改める
南城市幼小連携事業とする
幼=保育園・こども園・幼稚園
幼児教育施設を称する

2 幼小連携の実際

(1) スタートカリキュラムの実践紹介(実施日)令和5年4月4日(火)、(場所)南城市役所・大会議室 (趣旨)

小学校教諭が一堂に会し「スタートカリキュラム」の実践発表を通して、各学校のスタートカリキュラムの充実と教諭の実践力向上に資する。

(内容)

- ・発表者：金城 愛梨 南城市立大里北小学校教諭
- ・スタートカリキュラムの実践紹介
 - ①スタートカリキュラムの必要性
 - ②スタートカリキュラムの実践
 - ③合科的・関連的な授業

(参加者)

- ・小学校1年生担任15名、情緒学級2名、その他2名、行政6名

(成果)

- ・入学式前の実践発表で多忙な中を各学校からの参加があり、とても参考になりすぐに実践していきたいとの感想が多く寄せられた。
- ・入学前にスタートカリキュラムの実践紹介をしたことは時期的に良く効果的であった。

(課題)

- ・小学校1年生担任になりスタートカリキュラムの存在を知ることになるが、小学校の職員全員がスタートカリキュラムのことを知っているかと言えばそうでもない。(アンケートより)
- ・南城市以外から転勤してきた職員の中には、スタートカリキュラムを知らない職員もいる。

(改善策)

- ・校長がスタートカリキュラムを編成するとあり、学校全体で取り組むことが重要である。
- ・各小学校では、スタート期に小学校1年生の授業参観を実施している。2年生～6年生担任も自校の1年生の授業参観をしてスタートカリキュラムに関心を持つようにする。

(その他) *研修会に参加者からの感想

- ・今年度1年生を担当するのでとても参考になりました。具体的な実践事例をたくさん紹介してもらったので、早速持ち帰り学年で共有し真似します。スタカリは1年生を小学校に慣れさせる期間やルールを教えるというイメージがありましたが、全然違うことが良く分かりました。
- ・子供達に聞いてみる、任せてみる、待つという姿勢が大事だと思いました。私自信も子供達と楽しく過ごすことができるといいな、とワクワクしてきました。ありがとうございました。

金城愛梨先生



(2) 小学校一年生の授業参観及び振り返り(意見交換)〈実施日〉4月19日～5月16日

〈趣旨〉

小学校入学間もないスタート期の授業を参観したり振り返ったりして、幼児教育施設の職員と小学校職員との対話を通して幼児教育で培った学びや育ちを小学校教育へつなぐ。また、語り合うことで双方の保育・教育の理解を深める。さらにスタートカリキュラムに生かしていく。

〈方法〉

- ・ 授業参観 8：10～9：30 ・ 振り返り（意見交換） 15：30～16：45
- ・ 「授業の振り返り（意見交換）」の司会は小学校の職員が務める。・ 記録係は行政が担当する。
- ・ 小学校長、幼児教育施設長の参加を必須とする。

〈授業参観と授業参観の振り返り（意見交換）の様子〉

期日・実施校	授業参観の様子・振り返り（意見交換）の様子
<p>百名小学校 4月19(水) 参加者 午前 17名 午後 15名</p>	
<p>幼児教育施設から → 小学校から→ 幼児教育施設から</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我がこども園から20名ほど百名小学へ入学した。本日は色々な子供との関わりが見られて良かった。9月にもう一度授業参観してみたい。 ・ 保育園では遊びこみ楽しんでた子ども達は今どのようにしていますか、今までの良さは生かされていますか？昆虫の大好きな〇〇君でした。 ・ 幼児教育施設では先生方は幼児にどのような言葉かけをしているのか知りたい。 ・ 保育園では子ども達に考えさせるようにしている。すぐに答えを出さない。
<p>馬天小学校 4月20日(木) 参加者 午前 16名 午後 13名</p>	
<p>幼児教育施設から → 小学校から→</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かしてから授業に移るのは子供達にとって入りやすいのいいと感じた。脳が活性化するので自園でも朝登園すると体を動かす取り組みをしている。 ・ 保育園と同じような雰囲気できいきとしていた。子どもたちに考えさせているところが良かった。 ・ 教室の真ん中にテーブルが配置され、会話を楽しんで好きな遊びができる環境はいいと思った。 ・ 1からのスタートで、カバンの置き方、トイレの使い方、給食の仕方等を先生が教えていた。今は、子どもから聞きながらひとつひとつ進めている。 ・ 宿題も子どもの実態に合わせて出していく。まだ文字に抵抗を示すが2名程度いるため線遊びを宿題にしている。 ・ 今まで勤務していた学校では泣いている姿がよく見られたが、馬天小学校ではそのような姿が見られない。遊びを通して満足することで、他者への関心へ向かう。保育園、幼稚園等で年長児としてできる子たちが一年生になって、できない存在になっていたところがあったので、自分たちはできる！を伸ばしていきたい。 ・ このように集まるといいアイデアがある。今後も情報交換の場を持っていけたらいいと思う。先生方の指示の仕方も変わってきた。子ども達にとって分かりやすい環境作りをしていきたい。

<p>大里北小学校 4月25日(火) 参加者 午前 30名 午後 26名</p>	
<p>幼児教育施設から → 小学校から→</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3組の一人がけん玉に夢中になっている姿が良かった。参観者に対し「できるよ」と話しかけ自慢していた。けん玉等の道具が少し足りないのではと感じた。 ・のんびりタイムの2組さん。折り紙で手裏剣をそれぞれ夢中になって製作していた。学校探検の忍者のイメージに合わせて作っていることが分かった。 ・コの字型のスペースで、子供達が真ん中に集まる姿が良い。児童に対し指示命令ではなく、子供達が主体的に子供に問いかける、投げかける声かけをしている。 Q1 なぜコの字型に机を配置しているのか？ ・今日4/25(火)が保護者の読み聞かせのスタートの日であった。外部の人(保護者読み聞かせ)の読み聞かせの時期が、早いのではないかと思う。担任が読み聞かせをするとういと思う。 ・遅刻した子に対しての対応。「待ってたよ!」「君が来てくれてうれしい!」とその子の存在を認め、安心感を与えている。 ・授業参観の振り返りの終了後、1年生担任と卒園した児童の様子や成長を話す時間を共有できることはとても大切だと思う。と同時に今後もこのような取り組みを継続してほしいと感じた。 ・Q1 への回答 コの字型に学習机を配置している理由について 子どもと言葉のやり取りや表情をみてコミュニケーションが取りやすい。 ・1組: 学校探検が案内になっていないかが気になる場所。国語の授業であったが、自分達で教科書を準備するなど学びに向かう姿が見られた。 ・2組: 学校探検の振り返りでは「部屋がわからない」という子に対し、どうしたらいいか尋ねると、「ひらがな勉強しよう」と子ども達の声が聞かれた。楽しみながら学びに広がっていく、字を読むために平仮名を勉強したいと学びに繋がっていくのだと感じた。また、字が書けない子は絵を描く姿や2年生が平仮名の読めない子に対し、絵を描くなど「思いやり」の姿が見られた。 ・3組: 探検の服作りでは、2組の友達の衣装を見せイメージを膨らませられるようにし、自分達で衣装作りを進めているので、ワクワクしながら楽しんでいる姿が見られた
<p>佐敷小学校 4月26日(水) 参加者 午前 21名 午後 17名</p>	

<p>幼児教育施設から →</p> <p>小学校から →</p> <p>幼児教育施設から 小学校から →</p> <p>幼児教育施設から 小学校から →</p> <p>幼児教育施設から →</p> <p>小学校から →</p> <p>行政から →</p>	<p>・すぐに授業に入らず園でやっていたことを楽しみながらスタートし、授業に入りやすいと思う。動きもあり、絵本読み聞かせもあり静と動のバランスが良かった。</p> <p>Q：一年の教室隣に中庭があるが、子供達が遊ぶ姿が見られないのはなぜ？</p> <p>A：5校時前の長い休み時間には遊べる。今はまだ5校時がないので遊ばせていない。廊下の製作コーナー、1組側のテラスで縄跳び、長縄など自由に遊べる環境がある。</p> <p>・小学校のスタートカリキュラムを見たいと思った。</p> <p>Q：なかよしタイムでリズム遊びや踊りなど「僕は絶対にやらない」と動かない子がいる。保育園やこども園等ではどうしているか？</p> <p>A：信頼関係づくりが大事では？子どもは、先生を試したり駆け引きしたりする時がある。のんびりタイムでこの子と関わってみたらどうでしょうか。</p> <p>Q：現在、一年生が掃除をどの程度できるか分からない。園ではどのように掃除をしていたか知りたい。「佐敷小学校の掃除の仕方」を1年生から6年生まで共通実践をするため、6年生に教えてもらっている。①机寄せ ②隅からはく ③ふく 手順を覚えてもらった子をリーダーにして掃除を進めていく予定。</p> <p>A：園では、年長組になると当番活動として掃除も分担してやる。飼育当番、水やり当番 給食当番、床拭きなど当番表で役割分担して行っている。(保育者)</p> <p>・各園の掃除の仕方を一年生に考えさせてはどうでしょうか。方法は色々あると思う。</p> <p>・小学校は15分しか掃除時間がない。当番にすると当番でない子の管理が難しい。</p> <p>・小学校では大きく時間をつくってやるのが難しい。その壁をどうするか。スタートカリキュラムの取組だと思う。・幼児期の積み重ねを大事にしていきたい。</p> <p>・のんびりタイムで活動（縄跳びや製作等）を授業へつなげることはできるのか。のんびりタイムの振り返りをやってはどうか。少しの時間でもいいと思う。</p>
<p>知念小学校 4月27日(木) 参加者 午前、13名 午後、13名</p>	
<p>幼児教育施設から →</p> <p>小学校から →</p>	<p>・自分の意見をしっかり伝えていたので、成長を感じた。授業に意欲的に参加し1年生を楽しんでいる様子が伺えた。</p> <p>・園のウサギは死んでしまったので、小学校でウサギの世話ができる環境があり良かった。中庭ではウサギがたわむれていて温かさを感じた。</p> <p>・トイレのスリッパを揃えるなどトイレの使い方がとても上手にできていた。</p> <p>・幼小連携をすることで、小学校の環境、和式トイレがある事がわかり、保護者の方へ伝えることができる。</p> <p>・スタートカリキュラムの日案を準備していただき、とても参観しやすかった。</p> <p>・貨物列車のルールを変えると、新たな楽しみが増えると思うので、ぜひルールを変えてみてはどうでしょうか？</p> <p>・のんびりタイムでは、今年度は8:20までのんびりタイムの時間を延ばすことでウサギと触れ合い仲良くなる機会を設けることができた。</p> <p>・なかよしタイムでは、踊ったりジャンケンをしたり楽しい雰囲気の中、スムーズに実施できるようにしているが、計画通りいかないこともあった。</p>

船越小学校
5月9日(火)
参加者
午前、23名
午後、22名



のんびり
タイムの
様子



幼児教育施設から
→

- ・自分達で考えながら遊んでいる。駒で遊んでいる子はどのようにしたらうまく回せるのか何度も挑戦したり、友達の見たりしていた。
- ・遊びの環境がすごい。下から上へ投げる環境がすごくいい工夫がある。上履きで広場に出ることができる環境で遊びがスムーズにできていた。
- ・のんびりタイムで楽しそうな姿を見て安心した。遊びこみのできるコーナーを設置しているのも良かった。考えながら遊んでいる。友達の様子をみながら一人一人が伸び伸びと遊んでいた。

小学校から→

- ・朝登校したら所持品の片付けをして自由に遊ぶようにしている。校長のアドバイスがあり外の遊びをやるようにした。そこでは、他の児童との関わりがある。5年生との交流もできている。好きな人(友達)と好きなことができる空間となっている。

大里南小学校
5月16日(水)
参加者
午前、34名
午後、26名



幼児教育施設から
→

- ・教室の奥まで入っていく時に静かに入っていた。場に応じた行動を見ることができた。短期間でこのような成長が見られて感動した。
- ・絵本の読み聞かせをした後に、絵本を廊下と教室の間に置いていた。興味を示した子は休憩中に絵本を見ていたので、環境的に良いと思った。
- ・挨拶が形式になっている。挨拶に気持ちが入っていない。挨拶は型にはめない。
- ・先生の声のトーン、関わりが良かった。文字や絵カードを使っでの授業が良かった。
- ・授業が終わる時に次の授業の準備をしての休み時間にはいていた。
- ・新園舎のため、我園の地図を作ろうということになった。子ども達は絵を描く、写真やその他の絵は先生が役割を分担。完成した地図は保護者に掲示する。今日の1年生の活動が繋がっていると感じた。

小学校から→

- ・入学当初から、スタートカリキュラムを実践。最初の頃は、のんびりタイム、なかよしタイムとゆるやかに小学校に慣れるように実践してきた。

幼児教育施設 → 小学校から→	<ul style="list-style-type: none"> ・探検に行く前に、感覚カードを使って（目・耳・鼻・触る）など五感を使って学校探検をするようにした。探検後は付箋に書く時間が足りなかった。 ・のんびりタイムでは、もっと遊びがあっても良いのではと思います。4月（のんびりタイム）でいっぱい遊ばせ、授業では子ども達の意見を聞いてあげる等。グリーン広場での遊び方は、学校でルールが決まっている為、全職員で検討していく。
-----------------------	---

(3)玉城小学校(公開授業実)の記録 〈期日〉令和5年5月18日(木)

〈趣旨〉

公開授業を通して幼児期の生活が小学校の生活科へどのようにつながっているか。又、幼児教育から小学校教育への「主体的・対話的で深い学び」の授業や保育はどのように展開されているのか双方の教育について語り合い理解を深めていく。

〈内容〉

- ・公開授業 玉城小学校1年生教室
- ・合同研修会（ワークショップ・指導助言・講話） 南城市役所・大会議室
 演題： 幼児期からつながる生活科 ～主体的・対話的で深い学びへ～
 講師： 宮城 利佳子 氏 琉球大学教育学部 講師

〈成果〉公開授業後の振り返り・玉城小学校

- ・遊びの中での会話が、小学校でのグループ活動の話し合いで自分の思いや考えを伝えたり、相手の話を聞いたりすることにつながっていた。
- ・子ども達との会話を通して、こども園で育んだ力を小学校生活にも生かせるよう一緒に考えることができた。（折り合いの付け方、言葉かけの仕方、遊び方のルール等）

〈課題〉

- ・子ども達のやりたいという思いを尊重し、活動時間を多く取り授業を進めていたが、自由に活動する児童が多くいたため振り返りや次時への見通しを持つ時間を十分に取ることができず、次の活動へ期待感を持たせることができなかった。

〈改善策〉

- ・子どもの思いを尊重しつつ、静かに話を聞くことや時間を見て活動する大切さ等の基本的学習規律を教えていく。

〈授業参観の様子〉生活科の授業「がっこうたんけん」：見たこと感じたことをグループで話合う



〈ワークショップの様子〉授業の振り返り：授業者 グループ協議：授業参観視点から協議する



(4)公開保育及び合同研修会の実施 こども園(1園)、保育園(3園)

〈趣旨〉公開保育を通して、幼児期の発達や学びを理解し、「子どもの姿」を中心に幼小中の職員が語り合い、切れ目のない教育を目指す。

〈時期〉夏休みに保育参観・合同研修会の実施をする。(夏休みは小中学校教諭も参加しやすい為)

〈時間〉公開保育 9:00～9:50 合同研修会 10:10～12:00

〈参加者〉A～Dの4ブロックに分かれて実施。全中学校へも合同研修会へ参加を求める。

〈場所〉合同研修会の場所は小学校を活用する。その他

〈方法〉合同研修会は、各ブロックで司会進行・記録係を割り当て実施する。

講師を招聘 宮城利佳子氏 琉球大学教育学部講師

〈実施要項〉

①はじめの言葉 ②園長あいさつ ③保育者の振り返り(前日までの保育発表)

④指導助言と視点の説明 ⑤ワークショップ(グループ協議・発表)

『ワークショップの視点 ☆主体的な保育の展開 ☆遊びこんでいる姿』

⑥講話・演題:「幼児が主体的に遊びこむ姿をめざして」

～幼児期から児童期へと切れ目のない教育へ～

【玉城こども園・7月28日(金)】玉城地区(3小学校・中学校、幼児教育施設、行政、その他)

〈参加者〉幼児教育施設18名 小中8名、中堅研教諭8名、行政9名、琉大生1名 計44名

〈公開保育の様子〉9:00～ 9:50 *保育参観終了後玉城小学校へ移動



〈合同研修会の様子〉 玉城小学校 10:00～12:00 司会:小学校教務



〈成果〉

・7月現在は4月、5月より遊びこんで過ごす姿が見られた。

〈課題〉

・公開保育当日の振り返りがあまりできてなかった。子ども達が遊び込むための環境構成の工夫。

〈改善策〉

・子どもの声やつぶやきを拾ったり、保育の振り返りの時間を作ったりするようにする。

〈指導助言〉

・朝の集まりのもちかた(必要性について考える) ・子ども達の意見を制限していないか。

・大人が作った環境になってないか ・保育参観をしたいと申し出る園がたくさん出てほしい。

〈その他〉 *参加者からの学びや感想

・先回りしすぎない、保育者と一緒に試行錯誤する、「なんでだろう」と問いかけて考えさせることを大切にしたいと思った。

・0歳からの遊びについて学べて良かった。自園でも“遊びこむ”環境づくり、時間の使い方を考え直し、保育者同士話し合っって子どもの遊びの探究が深められる保育をしていきたい。

- ・子どもを主体的に学ばせるには、まず環境の整備が大切だと感じた。中学校にも言えるなど感じた。自分で学びを選択できるよう授業改善につなげていきたい。
- ・居場所、信頼感、ドキュメンテーション。いろいろなキーワードを聞くことで中学校でも必要なことを考えるきっかけとなりました。

【おおざと保育園・8月15日(火)】 大里北小区（中学校、大里北小幼児教育施設、行政、その他）
 〈参加者〉 幼児教育施設 18名、小中 11名、その他 8名、行政 9名、計 46名
 〈公開保育の様子〉 おおざと保育園 9：00～9：50



地域の行事に参加した子ども達！
土俵を作りお相撲ごっこが始まった

〈合同研修会の様子〉 大里北小学校 10：00～12：00 司会：小学校1年生担任



〈成果〉

- ・公開保育を通して園内研修を深めていく事が出来た。保育を具体的に振り返りアドバイスをいただく事によって、子どもの姿を捉え保育の展開につながった。
- ・職員が同じ目標に向かってお互いを認め合い学び合い質の向上への第一歩となった。

〈課題〉

- ・園内の自然環境の見直し、園庭での水遊びの発展、植物・植栽計画、虫や蝶を呼ぶための環境が不十分である。

〈改善策〉

- ・園内研修で共通理解をし、環境の改善等を伝え合いながら子どもに合った、園に合った環境作りを進めていく。

〈指導助言〉

- ・同僚性。年上からも年下からも学ぶ誰からでも学ぶ、フラットな関係性・完成形を求めない。
- ・保育者同士で子どもの成長を分かち合う。次週の計画（願い）、遊びこむことについて語る。
- ・環境構成。
子ども達は園内すべての場所でわくわくし、自由に使える環境。できる限り制限しない。

・保育者の援助

ゆったりとした雰囲気、先回りしすぎない保育者も一緒に試行錯誤する。遊びの持続、探究へ。探究を子どもに見える形にしていく協働的に（記録する、調べる、表現する）

〈その他〉 *参加者からの学びや感想

- ・子ども一人一人が自分の意志を尊重され意思決定し行動できる（遊びに没頭・集中する）からこそ主体的に意欲的に遊びこんでいけると感じた。朝の会をなくし十分遊べる時間の工夫と環境を作りしていた。
- ・先回りしすぎない適切な保育者への援助が素晴らしい。一緒になって寄り添いながら子どもの遊びを膨らませ、イメージできるような声掛けが良かった。

- ・子ども自身がやりたいことにむかって他の子ども達と協力しながら探究していく姿を、小学校でも問いが生まれる授業へと繋げていけるようにしたいと思った。
- ・幼小接続について幼児期の遊びが児童期へとつながる事、その具体例を見ることができ、小学校での環境や言葉かけ子どもとの関わり方を授業づくりに生かしていく。

【馬天保育園 8月18日(金)】 佐敷地区小学校・中学校、佐敷地区幼児教育施設、その他

〈参加者〉 幼児教育施設18名、小中7名、その他1名、行政8名、計38名

〈保育参観〉 馬天保育園 9:00～9:50 *保育参観終了後南城市役所へ移動



〈合同研修会〉 南城市役所 10:10～12:00 司会：子ども保育課係長



〈成果〉

- ・子ども達が自由に好きな遊びに集中したり、友達と協力したりしながら遊びを展開することができ、遊びこむ環境を確立できた。
- ・子どもたちが遊びこめる環境について考える良い機会となり、環境の大事さに気づいた。

〈課題〉

- ・子ども達の創造力や探究心が育つような環境。遊びこむ為の関わりが不十分であると感じた。

〈改善策〉

- ・子ども達の発達に応じて遊びを工夫し、子どもの姿から環境を整え改善していく。
- ・遊びこむ為に、一日の時間配分や職員の配置等の工夫をしていき保育の質向上を図っていく。

〈指導助言〉

- ・環境を整える→おもちゃは、いつ、どのくらい必要なかを考える
- ・援助→保育者はどの遊びを発展させたいのか、願いをもつ、保育者は子どものパートナーになる
- ・子どもと対話する→子どものつぶやき保育を広げる。保育者の声量、安心感。

〈その他〉 *参加者からの学びや感想

- ・わらのお家で、家賃なども話し合っ決めて遊びを楽しんでいる。その中で作りたいものがあったら廃材コーナーから材料を見つけ作っている。遊びがさらに広がっていた。約1時間ずっと集中して自分がイメージしたものを製作し、遊び込み集中する姿が見られた。
- ・オタマジャクシのビオトープ、わらの家、絵本からのアイスパーティー。子どもの願いや、イメージに寄り添い実現できるよう援助を行っている。中学校ではなかなかできないけど改めて大切なことに気付くことができた。
- ・中学校の校長先生も参加されていて、保育園での課題や小学校以降について欲しいこと等の意見が聞けたので良かったです。

【おひさま保育園・8月23日（木）】大里南小区、大里中学校、大里南小幼児教育施設、その他
 〈参加者〉小中12名、幼児教育施設20名、その他1名、行政10名、計43名
 〈公開保育〉おひさま保育園 9：00～9：50 *保育参観終了後大里南小学校へ移動



〈合同研修会〉大里南小学校 10：15～12：00 司会：小学校1年生担任



〈成果〉

- ・これまでの一斉指導から子ども主体の保育へと少しずつ変わることができた。
- ・日々の保育の振り返りができ質の向上につながった。環境を園全体で見直すきっかけとなった。

〈課題〉

- ・0～2歳児の年齢の応じた興味関心のある玩具を研究し、職員手作りの玩具を増やしていく。

〈改善策〉

- ・遊びこむ為の工夫として、登園後すぐに庭や屋上で遊べるような環境を整えていく。

〈指導助言〉

- ・ドキュメンテーションは、0歳児の読み取りがあり発達していく様子がよく分かる。
- ・4歳、5歳児が遊びの中で学んでいることを読み取っている
- ・製作が自由にできるような配置。製作遊びがどんどん発展していく
- ・色水遊び、シャボン玉遊び、水遊びへの工夫
- ・どうやったら楽しくなるのか、保育者がワクワクしている

〈その他〉 *参加者からの学びや感想

- ・屋上では、水を使った遊び、色水遊び、ウォータースライダー、氷、シャボン玉、はかりで重さを図る環境があり、子ども達は好きな遊びを繰り返し試したり工夫したり満足して遊ぶ姿が良かった。
- ・小学校・中学校の先生方の話を聞いて。保育園での育ちが大事になってくることを改めて感じた。これからも丁寧な保育を心がけ楽しんでいきたい。
- ・保育園・幼稚園での文字の読み書きをしっかりと教えていると思っていたが、遊びや環境の中に取り入れて自然に学びにつなげていることが分かった。

3 成果・課題・改善策

(1) 成果

- ①一年生の授業参観を毎年行っているが、振り返りが実施されていなかった。その反省から今年度は幼児教育施設長・職員、小学校校長・教頭・1年生担任、行政がスタート期の授業参観及び授業の振り返り（意見交換）を実施した。幼児期の学びや育ちがうまくひき繋がれているかを子どもの姿を中心に語り合うことができた。双方の保育・教育の違いを理解することができた。

- ②公開保育及び合同研修会では、小規模(各ブロック)で研修をすることで校区の幼児教育施設、小学校、中学校の職員が対話しやすい雰囲気ワークショップや研修会ができた。今年度は中学校の職員も幼小連携事業に参加を促し、幼児期から小学校教育・中学校教育へと切れ目のない教育へ踏み出すことができた。
- ③公開保育に向けて指導案の作成等、幼児教育センターと進めることができ一斉指導から子ども主体の保育へ、遊びこむための保育の展開を考えるきっかけとなった。また、指導助言や講話を講師の宮城利佳子氏から専門的な助言を受け保育・教育の質の向上につながった。
- ④保育ドキュメンテーションの取り組みは2年目となる。今年度は各園の保育ドキュメンテーションを大会議室に一斉に貼り他園の保育ドキュメンテーションから学び合う研修会となった。保育士は保育ドキュメンテーションを作成する中で、幼児理解や保育記録にもなり次期・次週の保育に生かすことができ保育改善につながっている。

(2) 課題

- ①小学校一年生授業参観では、双方の教育の違いを理解するのに留まっている。幼児期で培った学びや育ち引き継がれているか、一人一人の良さが発揮されているかを考えていきたい。
- ②「子ども達の創造力や探究心が育つような環境。遊びこむ為の関わりが不十分であると感じた。」と公開保育園の課題があげられた。また、保育者主導の保育が見られ子どもが主体的に遊ぶ保育の展開になっていない園もある。
- ③保育ドキュメンテーションの作成する時間の確保が難しい。保育ドキュメンテーションの目的が十分に理解されてない幼児教育施設がある。

(3) 改善策

- ①スタートカリキュラムの“のんびりタイム”“なかよしタイム”の過ごし方を幼児教育施設の職員と小学校一年生担任と環境や援助の仕方や子どもの姿を語り合い授業改善を図る。また、スタートカリキュラムは、学校全体で取り組むものであり全職員で共通理解をする必要がある。
- ②子どもの姿やつぶやきを拾いあげ、子どもが主体的に環境に関わり保育の展開ができるようにする。と同時に「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を基に保育の展開、指導案の作成をする。
幼児教育の質の向上を図ることが、小学校教育へ滑らかに繋がると確信する。幼児教育が小学校へ合わせる。小学校が幼児教育へ合わせるのではなく。それぞれの教育・保育を改善・質の向上を図ることで滑らかに接続できるものであることを共通理解をしていく。
- ③保育ドキュメンテーション作成の目的や必要性等の共通理解を図り、理解を得ながら実施する。令和4年度の実践事例集を参考にし、保育ドキュメンテーション作成が楽しいと感じられように支援していく。

保護者向けリーフレット

もうすぐ一年生になるお子さんのいる保護者の皆さまへ
幼児教育の遊びは学び!!小学校以降の深い学びへ <<令和6年度版>>

The image displays three main components of the educational materials:

- Left Flyer:** Titled "幼児教育の遊びは学び!! 小学校以降の深い学びへ" (Play in preschool is learning!! Deep learning after elementary school). It features photos of children playing and the contact information for the Niigata City Early Childhood Education Center.
- Middle Diagram:** A central diagram titled "Well-being" that illustrates the connection between "幼児教育" (Preschool Education) and "小学校以降" (Elementary School and Beyond). It includes text boxes explaining the importance of play, the role of teachers and parents, and the goal of creating a "Well-being" environment where children can learn and grow.
- Right Grid:** A curriculum grid titled "小学校ってどんなところ? 教えてほしい" (What is elementary school like? I want to know). It shows a grid of subjects (国語, 算数, 英語, 理科, 社会, 音楽, 体育, 美術) across grades 1 to 5, with specific topics listed for each grade.